Vol. 22 2015.2

ROKKO NEWS

http://www.rokkorugby.com

特定非営利活動法人
六甲クラブ

準決勝直前号

リベンジの時は来た！

待ってろバーバリアンズ！ 駒場WMMに10トライ快勝！

いざ、リベンジへ。「第22回全国クララグビー大会」が開幕した。六甲ファイティングブル（近畿）は1月12日の1回戦でRKUラグビー龍ヶ崎（北関東・甲信越）に苦しみながらもロスタイムに大逆転トライで初戦を突破、25日の2回戦では駒場WMM（首都圏）から10トライを奪い完勝、準決勝の北海道バーバリアンズ戦へ駒を進めた。昨年、同じ準決勝で苦杯をなめた相手にリベンジすべく、『For the team』のスローガンの下、精進を重ねてきた六甲はメンバー23人だけでなく、六甲ファミリーの総合力でリベンジを誓った。

第22回全国クラブ大会2回戦（1月25日 瑞穂ラグビー場）

	六甲ファイティングブル	駒場WMM
前	19	0
後	43	0
計	62	0
T	7	0
G	4	0
PG	3	0
六甲FB	0	0

1月とは思えない穏やかな陽気の瑞穂ラグビー場で、六甲戦士が躍動した。

関東の強豪・駒場WMM相手に10トライ、62点の完封勝利。

今季一番のゲームで六甲ファイティングブルが準決勝に勝ち上がった。

「やってきたことしか試合に出せない」

ロッカールームの円陣で、SH谷主将はメンバーを見渡した。

「これまでやってきたことを100％出す。そして、気持ちは120％。120％の気持ちで体を張って、120％の気持ちで最後まで走り切って、限界を超えよう！」

前半6分、わずかなチャンスを生かして敵陣に入る。フェイズを重ねて、最後はWTB和田が左隅に飛び込み先制トライを決める。

駒場もすぐに反撃に出る。ダブルタックルや、ブレイクダウンでの鋭い仕掛けで六甲の反則を誘発してゴール前まで迫るが、LO上野、FLツーの猛タックルで押し返す。

「1回戦（龍ヶ崎ドラゴンズ戦）で厳しい試合をした成果が出ました。攻め込まれても誰も慌てることなく、デフェンスに集中していた」（谷主将）

駒場の猛攻をに乗り切った26分、再び六甲にチャンスが訪れる。左中間駒場ゴール前10メートル付近で、SO越村が対面選手の股下をすり抜ける絶妙なグラバーキック。自らボールを拾い上げてインゴールに飛び込んだ。その後35分には闘犬PR・加村がずんぐりした体で密集をこじ開けトライ。越村のゴールも決まって前半を19－0で折り返した。

ハーフタイム。わずかな時間に修正点を確認していく。「本当の勝負はここから。前半のスコアはどうでもいい」。谷主将はもう一度ネジを締め直しにかかる。「本当の勝負はここから。これからの試合相手は、後半で勝負が決まってくる。残り20分を集中して俺たちの強さを証明しよう！」

後半8分から六甲のトライラッシュが始まった。まずWTB三木が右隅にトライ。16分には途中出場のSO安部が、22分にはFWがスクラムを押しこんでトライ36－0。26分には寺田、35分には再び安部、37分、HO加來が転がり込みトライ。ゴール決まり57－0。

そして最後は終了間際、WTB三木が約40メートルを走り切りトライ。62－0でのノーサイドとなった。

「前戦の反省が生きて、イメージ通りのゲームができた。チームは確実に強くなってきています」（谷主将）

勝負は負けてからが面白い。昨年の準決勝、雪が残る熊谷ラグビー場で、六甲は北海道バーバリアンズに完敗した。ある若手は悔し涙をこぼし、ある選手は「負けたのはオレのせい」と責任を背負い込んだ。新シーズン、谷主将の下、厳しい練習を積み重ねてきた。

「駒場戦で自分達の『限界』を超えることができた。自信を持ってバーバリアンズに挑戦できます」。

谷主将は目を輝かせて、雪辱の舞台に向け言葉に力を込めた。

激戦を繰り返す化学反応で、チームも選手も大きく成長していく。

込み上げてくる情熱にしかできないことがある。いざ、リベンジへ。

六甲ファイティングブル。

今はただ走り抜けるのだ。

六甲ファイティングブル

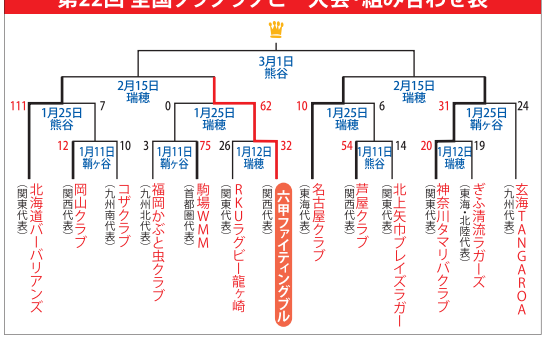
62（43－0、19－0）0 駒場WMM

		駒場WMM	六甲FB
前	T	0	3
	G	0	2
	PG	0	0
	前	0	19
後	T	0	7
	G	0	4
	PG	0	0
	後	0	43
計		0	62

六甲FB先発
FW 越田 祐樹（摂南大）、高橋 麻一（関学大）、加村 太亮（大産大）、大内 助雄（京産大）、上野 太純（阪南大）、島邑 純太（帝塚山大）
HB ワレティニートーマス（ディルワーズ）、向井 康祐（甲南大）
TB 谷 晋平（天理大）、越村 一隆（中大）、和田 也晋（大体大）、前田 宣郎（天理大）、寺田 幸司（帝塚山大）、三木 太勇（甲南大）
FB 玉川 英人（立命大）

▽交代 安部都兼㉑（関学大）＝前田、加來㉜（カリフォルニア州立クレシス校）＝加村、舛尾敬一郎㊵（専大）＝上野、由良康美㊳（帝京大）＝玉川、橋詰明範㉗（同大）＝谷、山田利之㉞（大商大）＝高橋

第22回 全国クラブラグビー大会・組み合わせ表



スポーツ振興くじ助成事業
toto FOR ALL SPORTS OF JAPAN

WORLD HYDRUN ナカシマ HOTEL PLAZA KOBE ホテルプラザ神戸 JTB Perfect Trainers 株式会社パーフェクト・トレーナーズ 三宮センター街二丁目 特定非営利活動法人 兵庫介助犬協会 私たちは、六甲ファイティングブルを応援しています！

ド執念のサヨナラトライ！

～RKU龍ケ崎にロスタイム逆転勝利！～

全国大会1回戦（1月12日瑞穂ラグビー場）

	RKU龍ケ崎	六甲ファイティングブル
		32（10－19、22－7）26
前半	1	10
後半	1	19
計	2	26
PG	0	2
G	0	2
T	1	3
六甲FB	10	32

▽交代　越田祐麻（摂南大）㉔＝高橋、安部都兼（関学大）㉔＝越村、舛尾敬一郎（専大）㊵＝島邑、奥野裕介（立正大）㉖＝上野、竹内茂芳（大体大）㉘＝前田
六甲FB先発（○数字は年齢）

FW	高橋　樹	（関学大）	㉕
	加來　孝之	（カリフォルニア大）	㉜
	加村　一	（大産大）	㉕
	内田　亮	（京産大）	㉕
	大上　助	（阪南大）	㉗
	野邑　雄太	（帝塚山大）	⑳
	島　純太	（ディルフーズ）	㉓
	ワレティニ・トーマス	（関学大）	㉙
HB	井　康祐	（甲南大）	㉙
	向谷　一隆	（中　体大）	㉒
	越村　晋平	（天理大）	㉕
	和田田　晋也	（大体大）	㉚
TB	前田　宣郎	（天理大）	㉔
	寺田　幸司	（帝塚山大）	㉕
	三木　勇太	（甲南大）	㉚
	玉川　英人	（立命大）	㉔
FB			㉙

「苦し勝った」「つら勝った」「負けな勝った」…。

RKUラグビー龍ケ崎との全国大会1回戦。六甲ファイティングブルが苦しんで、苦しみ抜いて初戦を突破した。

前半は上々の滑り出しだった。前半3分、突進するCTB寺田からFB玉川に渡り先制のトライを決める。

8分には越村のPG、12分には再び玉川が右中間に飛び込み15－0。六甲のペースで試合が進むかと思われたが、20分過ぎからドラゴンズも学生らしく早いテンポでボールをつないで来る。24分にはBKのインサイドをつかれトライを許してしまう。

その後しばらくこう着状態が続いたが、前半36分、密集のわずかな隙間をHO加來が強行突破。最後はスパイクが脱げながらもゴールに転がりこんだ。

修正してきたドラゴンズ。

中途半端な高さで当たる六甲FWを一人目が引き起こし、2人目がボールに絡み反則を誘発させる。そして全員が意思統一してDFラインを猛烈に上げてくる。

後半6分、やや浅めになった六甲のBKラインから巧みにインターセプトをされて、重要な後半最初の得点をドラゴンズに許してしまう。

「点差を考えれば（22－14）、まだ余裕があったのに、あれで、浮き足だってしまった」（谷主将）

「焦りがチーム内に広がって前半のような冷静なオプションができなくなった」（FB玉川）

大差で勝ち上がってきた全国予選。接戦の経験が少ないことからチームの歯車が狂いかける。風下になり、キックを有効に使って攻め込むドラゴンズに防戦一方となる。

六甲も30分に安部がPGを決めるが、なかなか落ち着きを取り戻せない。そして34分。自陣からSO安部のパスをまたもやインターセプトされてトライ6ゴールを許し25－26と逆転を許してしまう。終盤、22－7でのハーフタイム。ロッカールームで手ごたえをつかみながら修正。ポイントを落とし込み、勝負の後半に出た。

しかし、そこに地獄が待っていた。ハーフタイムでキッチリ

SH谷は敵陣中央付近にボールを集めてドラゴンズの反則を誘うが、波に乗った学生の防御は分厚く、逆に六甲が反則を繰り返す悪循環になっていた。

「正直、終了前に2回タッチに出された時はあきらめそうになった」（谷主将）

しかし、仲間は誰ひとり顔を下げていなかった。途中から入った経験豊富なFL舛尾が的確な声でチーム内に規律を呼び戻す。

入替のPR越田、LO奥野もスクラムを押す。ベンチからは逆転を信じる仲間の声。そして風に揺れる「六甲クラブ部旗」―。どんなに苦しくても、ひるまず、前に進め―。

ラストワンプレー。FL舛尾が密集から低く飛び出す。ラック。SO安部がミスマッチを見極め鋭く内に切り返し大きくゲインラインを突破する。

LO大内がフォローに入り再びラック。スペースが空いた！斬りこんできた№8向井が飛び込んだ！逆転！

ゴールも決まってノーサイド！32－26。

苦しんで、苦しみ抜いて、六甲ファイティングブルが初戦を突破した。

ラグビー人生で一度あるかないかのロスタイムでの大逆転勝利。選手・スタッフ・OB・応援する全ての思いでつかんだ勝利だった。ノーサイドの瞬間、選手もスタッフも涙でぐちゃぐちゃだった。

成人式を欠席してまで出場したLO上野は号泣していた。

「またみんなとラグビーができる喜び。かけがえのない瞬間となりました」（谷主将）

2015年1月12日の奇跡―。

六甲ファイティングブルがクラブの歴史に新たな一ページを刻んだ。

悔しさをバネに全てを出し尽くす！

GM 東田 哲也

1回戦こそ大苦戦をしましたが、ここまで順調に勝ち上がり、我々のターゲットのひとつでもあるバーバリアンズにリベンジする舞台は整いました。

龍ケ崎ドラゴンズとの激闘を制したことが、チームワークと個々のモチベーションを上げる大きなきっかけになったことは間違いありません。

何より、全員が「勝つんだ！」という強い気持ちを持って最後まで諦めずに戦ったことに尽きると思います。このメンタルはリベンジするための準決勝戦でも非常に大切になります。

駒場WMM戦は立ち上がりこそ反則とミスが目立ち、なかなか六甲ペースにできなかったものの、後半に大量得点を奪って完封勝利できたことは、例年よりフィットネスが高いチーム力の証です。

昨年、連覇を逃した悔しさをバネに全てを出し尽くします。皆様の応援が選手の励みになりますので、熱い声援宜しくお願いします。

「最高のチーム」を証明します！

主将 谷 晋平

いつも暖かいご声援ありがとうございます。

ついに昨年の借りを返すチャンスがやってきました。六甲クラブは最強のチームではないかもしれませんが、間違いなく最高のチームです。

準決勝ではチーム一丸となり、最高のパフォーマンスで証明します。そして日本一に突き進みたいと思います。日本一になるためには試合メンバーの23人だけではなく、六甲ファミリー・サポーター全員の力が必要だと思っております。

より一層の応援をよろしくお願いいたします。